

きぼう

学校標語 「笑顔かがやき 優しさいっぱい」

令和2年 4月15日
練馬区立南田中小学校
校長 原田 知樹
4年学年だより No. 2

本年度は、コロナウイルスの感染予防のため、例年とは違ったスタートとなりました。しかしながら、学校、保護者の皆様、地域全体で力を合わせ、1年間を終えた時に、子供たちが、「充実した1年間だった」と思えるようにしていきたいと考えています。そのために全てをプラスの力に変えて、指導をしていきます。実際の学習の日数は少なくなるかもしれませんが、内容の濃い1年間にしていきます。このような気持ちも込めて、学年だよりのタイトルを「きぼう」としました。保護者会は中止となってしまいましたが、保護者の皆様とやっていきたいことや考えていきたいことを資料といたしましたので、お読みいただき、ご協力をお願いいたします。

1 南田中小学校教育目標

- (1) 考えを表現する子
- (2) 助け合う子
- (3) がんばりぬく子

2 学年目標

- (1) 思いや考えを、適切な言葉や話し方で表現する。
- (2) 自分と他者を大切に、周りの状況や相手の気持ちを考えて行動する。
- (3) 楽しみながら、様々なことにすすんで取り組む。

3 4学年の学年方針

<はじめに>

◎学校と家庭で子供たちを育てる

学習の仕方、様々なことへの考え方、指導の方向性などを、学校と家庭が共通理解して子供たちに伝えていくことで、子供たちへの指導がより定着しやすくなります。そのために、保護者の方ができる限り、学校で学習したことや指導されたことを見てあげてください。具体的には以下のようなことです。

(1) 学校で起きたことについて話をしたり、聞いたりする。

・楽しかったこと、嫌だったこと、友達について、先生について、何でもよいので、会話をしあげることによって、学校での様子の他、お子さんの微妙な気持ちの変化なども読み取りやすくなります。いじめなどの早期発見にもつながります。



(2) 連絡帳を毎日必ず見る。

・連絡帳は毎日必ず書きます。次の日の時間割や持ち物、学校からの連絡など、大切な情報を家庭に伝えるためのものです。家庭で毎日見ることによって、書いていない場合、家庭からの連絡が学校に伝わっていない場合など、すぐに知ることができます。4年生では、連絡帳を書いているかどうか担任が全員分をチェックはしません。ご家庭でチェックするようにしてください。

(3) 宿題をどのようにやっているのか、毎日必ず見る。

・宿題は丸付けをお願いする場合とそうでない場合がありますが、お子さんの行った宿題は必ず毎日見てください。いい加減に書いていないか、間違っていないか、名前はちゃんと書いてあるかなど、確かめてから提出するにしてください。

(4) ノートやプリント、テストなどを見て、どのように学習しているのか知る。

・学校で学習したことについても、できる限り見てあげてください。特に、ノートやワークシートなどを見ると、どのように学習に取り組んでいるか分かります。お子さんの今の状態を、担任と保護者の両方が把握していることが大切です。

◎「自分の学級が好き」であること

自分のクラスの仲間、学習への取り組み、生活の仕方、雰囲気など、「自分のクラスが好き」と自信をもって言えるようなクラスづくりをしていきたいと思えます。そのために、「自分のクラスは自分で作る」と考え、今まで経験したことをもとに、楽しく、充実した毎日を送るためには、何が必要か考え、実行していけるように指導していきます。また、保護者の方におかれましては、学校や担任へのご指摘などがある場合は、お子さんの前でお話せず、直接ご連絡くださいますよう、お願いいたします。

<学年で大切にしたい2つの柱>

① 人に気持ちを向ける

友達、先生、話をする人、クラスの仲間、家族など、自分の周りにいる人に気持ちを向けて生活していくことが大切です。

・話をよく聞く ・相手の気持ちを考える ・返事、あいづち ・ルール、マナーを守る など

例：廊下を静かに歩くというルール → 歩いている人がけがをするかもしれない、教室の中にいる人が迷惑かもしれない

授業中は黙って話を聞く → 黙って聞くという形式が大切なので、気持ちを向けて話を聞くと、自然と目を見て黙って聞くという形になる。

② 一生懸命にやる

できる、できない、成功、失敗はやってみないとわかりませんが、「やる」「やらない」は自分で確実に選べます。「できる」子だけではなく、「やる」子を育てたいと思います。楽しんで一生懸命にやることが学力、体力の向上の源であると考えます。

<共通理解して行っていきたいこと>

○指導と評価をきちんと行う。(教師・保護者)

成績やテストだけが評価ではありません。大人が指導して子供がやったこと、子供が考えてやったことに対しても、評価をしてあげることが大切です。子供が行ったことに対してどうだったか、どう思ったかを伝えてあげるだけで十分です。そのことにより、子供が思ったことや行ったことに対しての価値づけになります。

例：掃除をきちんとしている子→いつもありがとう。がんばってるね。○○さんのおかげできれいになった。

(大人)「ちょっとそれ取って」→ありがとう。

(教師)「音楽室まで話をしないで行きましょう。」→2人話している人がいたね。次はできるようにね。

○理由を付けて指導する(教師・保護者)

理由を付けて指導することにより、児童も「なぜ」「どうして」と考える習慣が身に付きます。

- ・注意する、しかる→なぜ注意したのか。
- ・ほめる→なぜ良いと思ったのか。
- ・行事や時間割の変更など→理由を伝えることにより、納得する。
- ・学習、体験活動→なぜそうなるのか、考えさせる。

○目標・めあてをきちんともたせる(教師・保護者)

今やっていることは何のためにやるのか、やるとどうなるのか、この先どうなるのか目標があると意欲がわきます。また、めあてがはっきりしていると自分がすべきことがはっきりし、見通しをもちやすいものです。

例：○水泳で、25m泳ぎたい→あと5m泳げば目標達成。苦しいけど頑張ろう。

○水泳で先生がいいと言うまで泳ぎなさい。→いつ終わるか分からない、自分がいいのか悪いのか分からない、つらい。

○1つ1つ考えて行動する、想像力をもつ(児童)

小さなことでも、必ず一つ考えて行動するように指導します。

例：靴箱の靴をそろえてから、

教室に戻る→○(休み時間が終わった、靴をそろえよう、教室に帰ろう)

×(休み時間が終わった、教室に帰ろう)

教室に入る→○(教室に入ろう、ドアの向こうにだれもいないかな、よし安全。)

×(一番に教室に入りたい)

靴をそろえ、一つ落ち着いて行動することにより、次の行動が落ち着いてできます。教室の中に何も考えないで入るとけがをする人ができるかもしれません。このような場面は1日に数百回あり、これを1年間積み重ねた子とそうでない子では考える力に相当な差が出てくると考えられます。

また、成功や失敗の理由を考える、次にどうすればよいか考える、上手な人はなぜ上手なのか考えるなどのことも大切です。このことにより、思考力が高まっています。思考力が高まることにより、学ぶ力や状況を打開する力が育っていきます。

(学び方を学ぶ)

例：野球の素振り→○少ない数でも一本ずつ、角度や力の入れ方を修正しながら行う。

→×がむしゃらに何百回も振る。

漢字練習 →○一画ずつバランスやとめ、はね、はらいに気を付けて書きながら覚える。

→×とにかくたくさん書く。

○失敗を恐れない、ばかにしない(教師、保護者、児童)

- ・やってみて失敗したり間違えたりしても、チャレンジしたり、努力したりしたことを評価してあげたいと思います。

○言語化する。(児童)

どうしてうれしかったのか、何がいやだったのか、言葉にすることにより、自分の気持ちが伝えられるようになり、気持ちが落ち着きます。

例：○「○○さんが、悪口を言ってきたから腹がたって、言い返してしまった。自分もあやまるから相手もあやまってほしい。」

×何と言っていいかわからず、手が出る、物にあたる。「キレたから」(理由がわからない)

- ・どうして成功したのか言葉や文章に表す。

例：サッカーで「味方が相手のいないところに走っていたのでパスを出したら、ゴールにつながった。」

5 4年生の心とからだ

4月には3年生から進級したばかりの子供たちも、3月には5年生の一手手前です。1年間を通して心も体も刻々と変化し、大きく成長していきます。個人差などもよく考え、発達段階に応じた指導をすることが大切です。

<体の様子や習慣>

運動能力も高まり、身長も伸び、体重も大幅に増える子が多いです。体力がついてくると、活発になり、それとともに生活習慣の基本が崩れることも多くなります。言葉遣いも、大人言葉を使うようにもなりますが、まだ完全に理論的に話せるわけではないので、話に矛盾も多くなります。次第に個性がはっきりと表れるようになり、生活の仕方や態度にも趣味や好みははっきりとしはじめてきます。

<情緒、関心、意欲>

様々なものへの疑問が増え、自分の考えも根拠のあるものに育ちはじめます。友達や関係する人が増えることから、社会的適応に関係する悩みも増えていきます。少しずつ男女の意識も芽生え始めます。情緒は大人並に豊かになり、大人と同じような価値への感情も芽生えます。学習などへの意欲も高まり、適切な課題意識をもたせれば、学習への取り組み方も熱心で意欲的になります。

<思考力、技能>

思考の範囲は、生活圏の拡大とともに広がり、思考の深さも、次第に論理的になります。原因、結果の因果関係に興味を示し、論理的に矛盾することは敏感になります。

しかし、まだ、そうしたレベルもバランスを欠いていることが多く、考えることと技能や表現能力が伴わず、思い通りに行かないことへの焦りも見せることがあります。

記憶力は伸びて、過去から現在に到る多くの事柄が情報として生活に活かされるようになります。

<社会性、道徳性>

個人からグループ、学級内の意識から、次第に学校全体、さらには地域や国などを意識していくようになります。学年の後半になると、次第に集団の構造にも変化が表れ、大人のような冷静な判断に基づく生活ができるようになります。

5 4学年の学習

○国語

- ・話すこと・聞くこと…目的や相手、話の中心、話す場面を意識して構成し、話せるようにする。必要なことを記録・質問しながら、伝えたいことの中心を捉えて、自分の考えをもてるようにします。
- ・書くこと…相手や目的を意識して、書く内容を選び、伝えたいことを明確にします。
内容のまとまりを考えて構成を立てて書けるようにします。
- ・読むこと…登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面を移り変わりと結び付けて具体的に想像することができるようにします。
- ・言語に関する事項…新出漢字202字の読み書きができるようにします。
(47都道府県の漢字含む)

○社会

- ・東京都の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや防災活動を知ることができるようにします。
- ・地域の伝統文化や発展に尽くした先人の働きについて知ることができるようにします。
- ・人々の生活との関連を踏まえて、地図帳や資料を使って調べ、まとめる技能を身に付けることができるようにします。
- ・社会的事象の特色やつながり、意味を考え、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて関わり方を選択・判断する力を身に付けることができるようにします。

○算数【本年度から少人数3展開で授業を行い、学力向上支援講師が学年で一人付きます。】

- ・3年生までに学習したことをもとに、新しい学習を行っていきます。そのため、たし算、ひき算、かけ算、図形の特徴、グラフの読み方など、基礎基本がしっかり定着していることが大切です。また、問題の答えを求めるだけでなく、どうしてそう考えたのか、論理的思考や表現も養っていきます。

○理科

- ・現象やものの名前を覚えるだけでなく、「仮説をたてる・予想する」「実験の方法を考える」「観察や実験の結果から考察する」などの力も付けていきます。

○体育

- 運動の技能だけでなく、運動への取り組み方、思考・判断力などを養うことで、自分にあった運動の仕方を学んでいきます。

○道徳

- 学校で学び、考えたことを道徳ノートに書いていきます。ご家庭でも、その日の授業のことを話し合っていたいただきたいと思います。

○総合的な学習

- 課題を見付け、それを解決するための必要な資料を集められるようにします。
- 様々な資料やインタビューから集めた情報から必要な情報を整理・分析できるようにします。
- 学習したことをもとに、自分の考えをもち、工夫して発信できるようにします。

※本年度から週に1回、読売 KODOMO 新聞を購入しています。新聞を読んで最新の情報を知り、それに対する自分の考えをもてるようにします。そのために、新聞の情報をノートにスクラップしていきます。

○外国語活動

本年度から、年間35時間に授業時間が増えます。楽しみながら、以下のようなことを学んでいきます。担任とALTで授業を行います。

- 主体的にコミュニケーションを図ること。
- 日本と外国の言語や文化の違いについて理解すること。
- 英語で表現したり、伝え合ったりすること。

4年生はクラブ活動が始まります。また、授業時間も増え、学習内容も複雑になっていきます。時間と優先順位を考えて、先を見通しながら活動する力が求められます。

6. 5月7日（木）の持ち物について

下記のものを持ってきてください。道具箱や体育着などのその他の持ち物については、5月7日（木）に担任から子供たちに直接お知らせします。

校帽、ランドセル、マスク（着用して）、防災頭巾、連絡帳、筆箱、雑巾2枚、課題、うわばき（4月6日に忘れた人）、健康観察カード（5月分）

※宿題の行い方やノートの使い方などについては、学校が再開されてから子供たちに指導し、学年だよりでお知らせします。

※年間の行事予定については、保護者会だよりとともにお知らせする予定でしたが、最初に予定していたものから大幅に変更となり、現在調整中のため、予定が決まり次第お知らせいたします。